

安倍政権はイヤッ!

みなさんの

思いにこたえます

憲法改悪、原発再稼働は推進。「女性の活躍」といいながら、女性が輝けない日本…。自分の好きなことをいい、好きなことばかりやる安倍政権に私は怒っています。

安倍政権をやめさせる力は
市民と野党の共闘

これまでの運動で心がけてきたことは、いろいろな考え方も持つ人が、お互いを尊敬し、いっしょにできることをすすめる、ということ。多様性が力です。この思いで、こんどは政治の場で、市民と野党の共闘の発展に尽くします。



はるえ

いのもり春枝

My History

1949年12月24日

クリスマスイブに、余戸町で農家の次女として生まれる。余土小、余土中、おとなしい目立たない子どもだった。

1965年4月

松山商業高校入学。吹奏楽部に入学しクラリネットを演奏。松商が甲子園出場するたびにアルプススタンドで応援演奏、球児とともに汗を流す。

1968年3月

四国電波監理局に就職

看護師をめざしていたが看護学校の試験当日インフルエンザで受験できず。国家公務員試験に合格。電波監理局と公安調査庁から誘いを受け、電波監理局を選ぶ。人生のターニングポイントだった。



新日本婦人の会全国大会で愛媛の仲間と（後列左はし）

組合活動に参加

同じ試験を受けて就職したのに、男性は優遇され、女性は書類整理などに。何となく男女差別を感じるなか、職場の組合に参加。

19歳で日本共産党へ

1969年、19歳で日本共産党に。社会のため、人のためにがんばっている職場の黨員たちに憧れ「私も」と入党。

2014年3月

職場を退職。その間、県国公女性協議会事務局長、愛媛労働女性部長などを務める。

いま 松山市議会へ挑む

趣味

音楽鑑賞、フラダンス、山登り

家族

夫、犬のコロ（子どもたちは独立）

4人の子育て…

母として女性として
労働者として。

全世代の声を
届けます

子ども4人を育てながら、働き、組合の運動も続けてきました。赤ちゃんからお年寄りまで、働いている人やそうでない人、すべての年代の願いや悩みがわがことのように思えてなりません。私のこれまでの体験を生かし、こうしたみなさんの声を政治に届けることを、人生の第2ステージにする決意です。

働く女性の声を

職場に育児休暇も介護休暇もなかったときから、要求し、いまでは育児も介護休暇も制度化されました。産休も産前産後6週間から8週間になりました。

子育てママの声を

地域でも「学童クラブを作って」と運動し、すべての小学校に児童クラブができました。

私の原点

「世のため、人のため」とがんばる日本共産党の先輩たちの姿を見て、私もそうになりたいと思い、日本共産党に入りました。これが私の活動の原点です。



いのもりさんなら
まかせて安心だね!